

私の園の卒園式

折原祥子

卒園式の前夜、黄色のフリージアの花を束ね、明日胸につける子供達の顔を思い浮かべながらコサージュ作りをする。

卒園式の朝、子供達はいつもよりちょっと緊張した表情で登園して来る。毎日着て遊んだ園児服にはいつもより丁寧にアイロンがかけられ、頭にはリボンなどがつけられ、顔はにこにこしている。いつもよりちょっとおしゃべりをし、玄関でコサージュをつけてもらい、さらに主役的要素が強まる。

子供達には、卒園式とはどのように受け取められているのだろうか。

今日で幼稚園とはお別れなのだという事も分っている。しかし、別れるという寂しさよりも、新しいものに向う希望でいっぱいなのではないだろうか。卒園式も近くなった頃、いや、秋に行われる健康診断、お正月、ラ

ンドセルを買ってもらった、と少しずつ入学への期待がふくらんでいく。そしていよいよ明日からは小学生なのだという嬉しさでいっぱいなのではないだろうか。子供達の顔は晴れやかである。

それに比べて母親は、今日でお別れなのだと感傷的になったり、子供の成長した姿を前に嬉しさと緊張で涙を拭きながら見守っている。「こんなに大きくなって。」という気持ちこそうさせるのであろう。

私達教師はどうだろう。

子供達ひとりひとりいろいろな事が浮んで来る。口から生まれたようにおしゃべりで困らせたけど、お話が好きで気の良いつちゃん、お姫様のスカートとベールが好きで、ままごとの主のようだったひろみちゃん、お弁当を食べるのに苦労していたひろあきくん、等いろいろな事を通してようやくひとりひとりの気持ちと通じあえたのに、とその成長ぶりを思い、明日からいなくなってしまうと思うと、寂しい気持ちで泣きたくなる。

子供には、「先生も一緒に学校に行こうよ。」「先生学校に行ったら幼稚園のお友達が困るじゃない。」「いつも

学校の帰りに遊びに来てあげる。」などと慰められ、毎年おいていかれるのである。めそめそしないで、「頑張つて大きくなってね。」といつもの調子で元気に笑つて送り出そうと思うのだが顔は歪んでしまう。そんな気持ちでそれぞれが参加するのが卒園式なのではないだろうか。

私の園は、今年十六回目の卒園式を迎えるのであるが、改めて報告するような特別な事もなく、ごくあたりまえに毎年行われる。

型も考え方も開園時より変わらず、子供達ひとりひとりの成長を皆でお祝いし、一緒に遊んだ小さいお友達、先生、見守って下さった父母が参加し、毎日過した幼稚園とお別れをする、子供達中心の式である。

式の内容は下記のような順序で、キリスト教主義のため礼拝形式で行われ四〇分位で終わる。

式のための練習はあまりしていない。歌い慣れた讚美歌を選び、卒業の歌を入れ、お別れのことばの順序を合わせるために、全員でする練習は二回程である。証書の受け取り方も、各自その子らしい受け取り方で良いと思

式 順 序

卒園児入場

奏楽

さんびか(小さいときから)

聖句 卒園児

おいのり

さんびか(主に従いゆくは)

おはなし 園長先生

お別れのことば 卒園児

在園児

さんびか(つくしのように)

証書授与

記念品授与

卒業の歌 全園児

あいさつ 母代表

後奏

卒園児退場

(五十七年三月十九日十五回卒園式より)

うので、形にはこだわらない。しかし子供達は「先生証書もらうの練習しようよ。」と何故かやりたがる。

お別れのことばは三月の始め頃各クラスで話し合われる。「楽しかったこと。」「うれしかったこと。」「いちばん覚えていたこと。」「一年生になったらどんな事したい?」「おおきくなったら……。」「ことりぐみ、りすぐみさんに何かいいたいことある?」「卒園するぞうぐみさんにどんなこと云ってあげたい?」等……。ひとりずつから出て来たことばの中で、いちばんその子らしいのを選んでつなぎ合わせて行く、先生と子供の共同作業である。

卒園児は毎年三十名前後であるから、全員がひとこと云えるように、年中、年少児はグループで、組み立てていく。子供達は、自分の話したい事を受持つので張りきって話す。ことばも自分で自由にえらぶので話しやすいようだ。ある年などは当日急に違う話が出て来て驚かさされた事もある。

ある年のお別れのことばをみると、

。お砂場でお山をたくさん作りましたね。(年少)

。多摩動物園の遠足で、らいおんがのっしのっし歩いていたのがおもしろかった。(ますみ)

。私は子供の家でおばけごっこをしたのが楽しかったです。(ようこ)

。ぼくはドッジボールがとってもすきでした。(おさむ)

。ぼくは大きくなったら、おもちゃがすきだから、おもちゃ屋さんになりたいです。(まもる)

。一年生になったら一生懸命勉強します。(しおり)

。私はやさしい人になりたいです。(じゅんこ)

。学校にいてもがんばってね。(年中)

。ことりさん、りすさん、小さいお友達に親切にしてあげてね。(ゆみこ)

等……このようなものである。
証書については、もう少し良いものはないかと思いつつ市販のものを利用している。名前生年月日等、昔ながらの毛筆で書き入れ、印を押し準備する。

証書を書く時は、音楽の流れる中、一人ずつ名前を呼ばれ、園長先生より「おめでとう」と云われ、「どうも

ありがとう」と緊張の中にもうれしそうに、又皆からの拍手に照れながら、各自、自分らしい歩き方で席につく。卒園記念には、自分の描いた絵を表紙にしたアルバムを作り贈られる。園生活の思い出の写真をはって、大切に皆持っているようだ。お母様の挨拶も代表の方にお願いするのだが、毎年決ったようなことばになってしまいうので、今年は、卒園の時にお母様方の気持ちを文章にして頂き文集にしているものの中から、何人かの方に読んで頂く事を考えている。特別工夫してこんな事を、と云うのもない私の園の卒園式だが、春の花に囲まれ、暖かい雰囲気、日頃の保育の姿がそのまま見えるような最後の日にしたいと願っている。

(神奈川県・松ヶ丘幼児園)



私の園の卒業式

水藤 昭子

私達の保育園は、宗教法人(日本聖公会中部教区上田聖ミカエル及諸天使教会)で、教会の敷地にある古い建物を利用して、四〇年の歴史を持っています。

市の中央部にあり、隣接して幼稚園や保育園が五つ程固まって在りますので、思い切って、九〇名の定員を、六〇名にいたしました。人数が少なくなりますと、今までとはまた異なった生活が生まれてくると思われませんが、現在までの卒業式は、大体次のとおりです。

子供達がいただく証書には、

“あなたは、神さまのみまもりのもとに、本園にて□年間、保育を受けたことを証します”

と、記されていて、写真がはってあります。それは縦一六糎と、横二六糎の小型の物で、厚いしっかりした紙質で出来ています。写真はその左端にはってあるのですが、その写真は保母が写すものですから、その子供の表